

V 令和5年度 全国大会報告

第98回 令和5年度全日本盲学校教育研究会・北海道大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「新しい時代の創り手を育む」～持続可能な令和の日本型盲学校教育の構築～
- (2) 期 日 令和5年7月26日(月)～7月28日(火)
- (3) 場所(会場) 北海道札幌視覚支援学校(現地)、オンライン

2 内 容

- (1) 全体会・講演
 - ① 演題 「ライフ・イズ・クライミング」
講師 NPO 法人モンキーマジック代表理事
一般社団法人 日本パラクライミング協会共同代表 小林 幸一郎 氏
- (2) 分科会
 - ① 研究発表(発表者35名) 動画形式の音声付きパワーポイントデータ
 - ア 第1分科会 学習指導1(9名)
 - イ 第2分科会 学習指導2(9名)
 - ウ 第3分科会 生活(12名)
 - エ 第4分科会 特別支援(5名)
 - オ 第5分科会 理療(11名)

3 報 告

今年度の全日本盲学校教育研究大会は新型コロナウイルス感染拡大を受け、発表者と助言者、来賓は現地参集(約130名)、ほか一般参加者(約1,550名)はZoomでのオンライン参加であった。各分科会でZoomのIDを受け取り、ブレイクアウトで分かれて参加した。

例年であれば学校から出張として3名ほどが研究大会に参加していたが、今回はオンラインがあったため、団体として登録し、職員全員で視聴した。視覚障がい関係の研究大会は限られているため、多くの職員が講演や発表を視聴できたことは貴重であった。また、次年度は熊本県立盲学校が主管校となるため、九州圏内の盲学校に動員がかかる可能性があり、運営側として全日盲大会の全体像を掴むためにも、よい機会となった。質疑応答の際には情報交換ができるなど充実した場となっていた。

第 57 回全日本聾教育研究大会（奈良大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「ゆたかな知恵を育むろう教育」
- (2) 期 日 令和 5 年 10 月 19 日（木）、20 日（金）
- (3) 場所（会場） 奈良県立ろう学校、やまと郡山城ホール、奈良春日野国際フォーラム豊別館
ホテルリガーレ春日野

2 内容

- (1) 公開授業・指定授業
早期教育部（動画）、幼稚部・小学部・中学部・高等部（全学年公開）、寄宿舎（施設公開）
- (2) 授業研究分科会
幼稚部（年長 5 歳児）・小学部（5 年・国語）・中学部（3 年・道徳）・高等部（2 年・国語）
- (3) 記念講演 「多様性を大切にしよう教育を目指して」
武居 渡氏（金沢大学人間社会研究域学校教育系教授）
- (4) 研究協議分科会
第 7 分科会（自立活動 I 障害認識など）、第 9 分科会（センター的機能）、
第 10 分科会（進路・キャリア教育）

3 報告

公開授業・指定授業は、3名の参加者がそれぞれ奈良県立ろう学校の全学年に分かれ参観した。卒業生の進路先が、大学・企業・福祉的就労など幅広く、教師の専門性の高さを感じた。特に、教師と幼児児童生徒、幼児児童生徒同士の手話でのコミュニケーションが活発で活気に溢れていた。

記念公演では、聞こえない子供たちの成長に伴って考えていくべきこと 3 つの話が印象深かった。幼児期は、分かり合えるコミュニケーションと他者への信頼感（分かる経験と信じられる他者の存在）がとても大切で、その上に学齢期に学力と言語力（聴者が圧倒的多数である社会で生きていくための力）を育てる。青年期は、障がい認識と自己実現（自分は $1 - \alpha$ なのではなく 1 だと思えること）を積み上げることが大切だと話された。

第 7 分科会「自立活動 I」では、各校での障がい認識における取り組みについて実践発表があった。学習を進めるにあたって、大阪府立聴覚支援学校が作成している『キャリア教育プログラム』は領域毎に学習する時期や内容、目標も明記されており、新転任の先生もすぐに取り組めるよう工夫がなされていた。

第 9 分科会「センター的機能」では、大阪府立だいせん聴覚高等支援学校が、国や大学と連携して学校経営推進事業「VR/ARを活用した授業実践」を行っていた。聞こえない生徒の立場からどのような配慮が必要か、生徒の困りはどんなことか、指示が通らないことの大変さなど視覚的に学ぶことができる体験プログラムを開発して、地域の学校等の研修会に生かしていた。今後、ICTの普及により、本県においても導入に向けた研究を行っていくことが必要であると感じた。

第 10 分科会「進路・キャリア教育」では、大阪府立堺聴覚支援学校が独自に生徒の「キャリア教育つきたい力（マトリクス）」を策定し、評価をレーダーチャートとして視覚化、情報は共有し課題を引き継ぐ取り組みは興味深かった。また、福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校の独自の『進路ノート～キャリア・パスポート』の一部抜粋資料も今後の参考になると感じた。

第62回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「徳島大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「共生社会の中で、夢や志をもち、主体的に活躍する子どもたち」
～多様な個性が輝く特別支援教育を目指して～

2 内 容

- (1) 記念講演
演題：「共生社会の形成に向けたこれからの地域協働活動とキャリア発達支援」
～ヒト・コト・モノのつながりと対話を再考する～
講師： 弘前大学大学院 教授 菊池 一文 氏
- (2) 研究報告
三木安正記念研究奨励賞受賞者
秋田県立稲川支援学校 教諭 阿部 哲哉 氏
- (3) 分科会 (全15分科会)

	分科会名	分科会テーマ	提案者
1	早期からの特別支援教育	一人一人のニーズに応じた早期支援と幼保小の連携	愛知県・徳島県
2	通常の学級における合理的配慮と授業改善	学級や学校全体で取り組む特別支援教育	愛媛県・徳島県
3	高等学校における特別支援教育	高等学校における特別支援教育の展開	鳥取県・徳島県
4	通級による指導	多様な障がい特性に応じた効果的な通級指導の在り方	島根県・徳島県
5	教科別の指導	特別支援教育における教科別の指導の在り方	広島県・徳島県
6	各教科等を合わせた指導 (生単・日生)	社会で活躍する力の育成を目指した日常生活の指導・生活単元学習	香川県・徳島県
7	各教科等を合わせた指導 (作業)	社会で活躍する力の育成を目指した作業学習	岡山県・徳島県
8	自立活動	一人一人の教育的ニーズに応じた自立活動の指導	高知県・徳島県
9	交流及び共同学習	共生社会の実現に向けた交流及び共同学習	北海道・徳島県
10	健康・安全教育	命を大切にする力を育む健康・安全教育	東京都・徳島県
11	キャリア教育	自立と社会参加に向けたキャリア教育	福岡県・徳島県
12	学校経営	地域とつながる学校経営の在り方	和歌山県・徳島県
13	障がい者スポーツ・文化芸術活動	多様な個性を生かした生涯にわたる豊かな生活の実現を目指した取組	山口県・徳島県
14	就労支援	連携・協働に基づく就労支援	群馬県・徳島県
15	地域と連携	特別支援教育における地域連携の在り方	秋田県・徳島県

3 報 告

今年度の本大会は、4年ぶりに参集型の大会となったこともあり、850人というたくさんの参加者があったということだ。1日目の菊池一文教授の講演が特に印象に残った。これまで行ってきた特別支援学校での教育をキャリア教育の視点から整理することができ、今後の方向性を確認することができた。2日目の分科会では、会場が分かれ、全15もの分科会があり、提案発表・指導助言が行われた。午前中に提案を受け、午後からは討議の柱がそれぞれに設けられ、各県の先生方との意見交換や情報共有をすることができ、大変有意義な分科会となった。次回開催は、福井県である。

第 69 回全国肢体不自由教育研究協議会全国大会 島根大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進」
～個別最適な学びと協働的な学びの充実をめざして～
- (2) 期 日 会場集合 令和5年11月2日(木)
動画配信 令和5年12月18日(月)～令和6年1月31日(水)
- (3) 開催形式〈会場集合〉
島根県民会館
〈動画配信〉
第69回全国肢体不自由教育研究協議会島根大会 ホームページ

2 内容

- (1) 全体会
- ・全肢長挨拶 ・実行委員長挨拶 ・来賓祝辞
 - ・文部科学省講話
演題：「肢体不自由教育に期待すること」
講師：文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官
菅野 和彦 氏
 - ・記念講演講話
演題：「ウェルビーイングの視点で考えるこれからの肢体不自由教育」
講師：島根県立大学人間文化学部 教授 西村 健一 氏

(2) 第1分科会～第10分科会

分科会	内容
第1分科会	授業改善
第2分科会	学習指導Ⅰ（準ずる教育課程）
第3分科会	学習指導Ⅱ（知的代替の教育課程）
第4分科会	学習指導Ⅲ（自立活動を主とする教育程）
第5分科会	自立活動
第6分科会	健康教育
第7分科会	情報教育・支援機器の活用
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育
第9分科会	キャリア教育及び進路活動
第10分科会	地域との連携

- ・提案者からの提案発表 各分科会2事例 音声付きプレゼン・動画等による報告
- ・助言者からの指導助言 動画等による指導助言

【ポスター発表】

- ・ホームページ上でのポスター(PDF)発表

3 報告

本大会は、会場において開会式・全体会等、大会行事の一部が開催され、後日その内容と事前撮影された動画を大会ホームページ上にアクセスして見る形で実施された。

記念講演では、島根県立大学教授の西村健一氏が、「ウェルビーイングの視点で考えるこれからの肢体不自由教育」と題して講演をされた。「これからの肢体不自由教育を考えていくときに重要となるのは、持続可能な社会の創り手を育成していくこと、つまり、将来に向けた前向きな意欲を持つ人を育てることが重要である。」「教育振興基本計画の実現に向けて成功・失敗経験を繰り返しながら挑戦していくこと、他者とつながりながらウェルビーイングの実現に向かっていくことが大事である。」「『不安』に対する支援方略が必要であり、安心な状況作り（人生に彩を添える状況）が必要である。」といった内容であった。

文部科学省講話では、「肢体不自由教育へ期待すること」ということで、「教育課程の不断の見直しと各種計画とのつながり」、「単元や題材のまとまりを見通した豊かな授業づくり」、「ICT を効果的に使用した授業実践」を行い、教師でなければできない業務である「授業と研究の活性化」を期待するという内容であった。

分科会は、各分科会 2 つずつの事例報告の動画と、助言者からの指導助言を視聴することができ、ポスター発表では計 55 のポスターを閲覧することができた。

Web 開催となったことから、学校や自宅で動画や資料を視聴・閲覧することができ、全国の多くの参加者にとって、大変有意義な大会となった。

第64回 全国病弱虚弱教育研究協議会 福岡大会 第63回 九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 福岡大会
--

1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた、生きる力を育む病弱教育の在り方」
～ 子どもたちに 学びの多様性を ～
- (2) 期 日 令和5年8月10日(木)～31日(木)
- (3) 方 法 動画および電子文書の配信

2 内 容

- (1) 全体会
- ① 全病連理事長あいさつ
 - ② 主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演
演題「ひきこもりの多面的理解に基づく支援～家族支援からメタバース支援まで～」
講師 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 加藤 隆弘 氏
- (3) 特別講演
演題「病弱教育のさらなる充実に向けて」
講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課調査官 相原 千絵氏
- (4) 特別企画
講師 脳性まひコミカルプロマジシャン Mr.Handy 森 裕生氏
- (5) 分科会

分科会名	担当提言校	指導助言者
①教科等の指導	宮城県立拓桃支援学校 長崎県立大村特別支援学校	関西学院大学教育学部 教授 丹羽 登 氏
②自立活動の指導	愛媛県立しげのぶ特別支援学校 北九州市立小倉総合特別支援学校	特総研インクルーシブ教育システム推進センター 主任研究員 土屋 忠之 氏
③キャリア教育・進路指導、高校生支援	三重県立かがやき特別支援学校 長崎県立桜が丘特別支援学校	京都女子大学発達教育学部 教授 滝川 国芳 氏
④センター的役割、地域連携	静岡県立天竜特別支援学校 宮崎県立赤江まつばら支援学校	福岡こども短期大学 特任教授 武部 愛子氏
⑤PTA活動	茨城県立友部東特別支援学校 鹿児島県立加治木特別支援学校	全国病弱虚弱教育学校 PTA 連合会 事務局長 南風野 久子 氏
⑥ICT活用	大阪府立羽曳野支援学校 沖縄県立森川特別支援学校	国立高等専門学校機構熊本高等専門学校 特命教授 福島 勇 氏
⑦心身症・精神疾患のある子どもの指導	東京都立光明学園 北九州市立門司総合特別支援学校	福岡教育大学教育学部特別支援教育 ユニット准教授 深澤 美華恵 氏
⑧筋ジス・慢性疾患・脳性まひ等のある子どもの指導	秋田県立秋田きらり支援学校 福岡県立柳河特別支援学校	福岡県教育センター 主任指導主事 延命 典子 氏
⑨ベッドサイド教育・病院との連携	奈良県立奈良養護学校 大分県立別府支援学校石垣原校	福岡県教育庁教育振興部特別支援 教育課指導主事 宮城 亜樹 氏

3 報 告

今大会は、web 上で動画や電子文書の配信での開催となった。福岡県での開催であったため、全国病弱虚弱教育研究協議会、九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会の併催の形で行われた。学校単位で申し込み、IDとパスワードの入力で、大会期間中、閲覧することができた。そのため、個人研修の一環としていつでもどこでも視聴可能で、多くの会員が大会に参加することができた。特に会員からは、九州大学大学院の加藤隆弘氏の「ひきこもりの多面的理解に基づく支援」について、の講演が参考になる話が多かったと声が上がっていた。④分科会には、本県のエリアサポート事業についての取り組みの発表を行った。

情緒障がい教育研究部会

1 研究主題（テーマ）

「未来につなぐ特別支援教育の推進」～個別の教育的ニーズに応じた支援の在り方～

2 主な研究・活動の内容

(1) 年間活動報告

事業名	期 日	場 所	内 容
第1回研究会	4月25日(火)	宮崎南小学校	・ R5九情研実践発表に向けた検討
第2回研究会	5月11日(木)	宮崎港小学校	・ R5九情研実践発表に向けた発表資料作成
第1回事務局会	5月19日(金)	宮崎南小学校	・ 年間事業計画検討
第3回研究会	6月8日(木)	広瀬小学校	・ R5九情研実践発表リハーサル
第1回理事会	6月16日(金)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 総会決議(紙面決裁) ・ 年間事業計画検討
夏季研修会	7月28日(金)	オンライン	・ 実践発表
第2回事務局会	9月14日(木)	宮崎南小学校	・ 今後の事業計画等について
第4回研究会	9月22日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて
第5回研究会	10月27日(金)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 通級指導教室担当者研修会について
通級指導教室 担当者研修会	11月17日(金)	オンライン研修会 (ホスト宮崎南小)	・ 国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員 井上秀和先生 講演
第6回研究会	12月13日(水)	宮崎小学校	・ R6九情研実践発表に向けて ・ 授業研究会
第3回事務局会	1月16日(火)	宮崎南小学校	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会に向けて
第7回研究会	2月6日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討
第2回理事会	2月15日(木)	オンライン会議 (ホスト宮崎南小)	・ 年間事業のまとめ ・ 理事会まとめ(次年度の引継ぎ等)
第4回事務局会	3月11日(月)	宮崎南小学校	・ 本年度の反省 ・ 次年度の事業計画について
第8回研究会	3月19日(火)	宮崎南小学校	・ R6九情研実践発表に向けた発表資料検討

3 主な研究成果

本部会の事務局拠点校を宮崎南小に設置し2年目となり、組織を再編しながら、円滑な部会運営を図った。参集型による会議や Zoom を使用したオンライン会議等、両方の良さを生かしたハイブリッドによる研修会などを開催した。

(1) 成果

今年度の夏季研修は、他の研究部会と合同で研修会を開催した。今年度、第51回九州地区情緒障害教育研究会「長崎大会」のLD・ADHD分科会の実践発表者である、広瀬小学校 白石千絵教諭の実践発表を行い、児童への効果的な支援の在り方について、研修を深めることができた。

また、令和6年度、第52回九州地区情緒障害教育研究会「佐賀大会」の自閉スペクトラム症分科会の実践発表者である、宮崎小学校 小野友香教諭の授業研究会や研究実践の支援として研究会を行った。

さらに、通級指導教室担当者研修会(オンライン)を開催し、国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター総括研究員である井上秀和先生に通級による指導の在り方や先行事例などの講演をしていただき、大変好評であった。

(2) 課題

自閉症・情緒障がい特別支援学級に在籍する児童生徒は年々増加傾向にあり、多様化する教育的ニーズへの対応がより一層必要となっている。また、通常の学級に在籍する児童生徒の指導の困難さも増し、通級による指導を必要としている割合がさらに高まってきている。今後も通級指導教室の増設に合わせて、より高い専門性をもった教員が求められる。今後も研修を通して、教員の専門性を高め、指導力の向上を図るとともに、保護者や関係機関との具体的な連携についても、さらに取組を進める必要がある。

第 52 回全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会全国大会（埼玉大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「彩～豊かな学びと共生社会の実現を目指して～」
副題 難言「ことばを育て、こころを育み、自己肯定感を高めるために、今できること。」
- (2) 期 日 令和5年7月27日（木）・28日（金）
- (3) 場所（会場） ソニックシティ

2 内 容

- (1) 記念講演 「共生社会におけるコミュニケーションのあり方—発達障害からの示唆—」
講師 本田 秀夫 氏（信州大学医学部子どものこころの発達医学教室 教授）
- (2) 基調講演 「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方について」
講師 堀之内 恵司 氏 科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官)
- (3) 分科会（敬称略）
 - ① 第1分科会 「聴覚障害」に関する指導・支援
コーディネーター 澤 隆史（東京学芸大学 総合教育科学系 特別支援学講座 教授）
実践発表 ○共生社会の形成に向けた難聴学級の取り組み
○中学3年間の気持ちを支える指導
 - ② 第2分科会 「構音障害」に関する指導・支援
コーディネーター 西田 立郎（言語聴覚士・元埼玉県白岡市立篠津小学校教諭）
実践発表 ○ことばで表現することが上手な A さんから学んだ自己肯定感を高める構音指導
（都城市立明道小学校 春山咲希子教諭）
○笑顔かがやく ことば・きこえの教室
 - ③ 第3分科会 「吃音」に関する指導・支援
コーディネーター 小林 宏明（金沢大学 人間社会研究域 学校教育系 教授）
実践発表 ○吃音がある子どもが幸せに生きるためにことばの教室でできること
○開かれたことばの教室を目指して
 - ④ 第4分科会 「言語発達・読み書き」に関する指導・支援
コーディネーター 海津 亜希子（明治学院大学 心理学部 教育発達学科 教授）
実践発表 ○発達性読み書き障害が疑われる児童の支援
○読む・書く・伝える 力がつき自己有用感が高まる指導
 - ⑤ 第5分科会 「ICT活用」の指導実践
コーディネーター 海津 亜希子（明治学院大学 心理学部 教育発達学科 教授）
実践発表 ○読み書き等に苦手さのある児童の支援と自ら学び生きるための教材教具としての ICT 活用
○ICT を活用した通級指導
○苦手があっても大丈夫！Chromebook はぼくの相棒
 - ⑥ 第6分科会 「自閉症・情緒障害」に関する指導・支援
コーディネーター 霜田 浩信（群馬大学 共同教育学部 特別支援教育講座 教授）
実践発表 ○自己理解の深まりと自己肯定感の高まりを目指した自立活動の授業実践
○主体性を育てる『自立活動』へ！！

3 報 告

本年度の全国大会は、全難言協と全情研の合同開催で、聴覚障害・言語障害・発達障害・情緒障害の指導支援に関わる担当者の様々な専門性や、医療や福祉との連携を含めた保幼から就労までの途切れない支援などの実践事例が紹介された。また、対面参加とオンデマンド配信の視聴によるハイブリッド型の研究協議会でもあり、共生社会の実現に向けた新しい形の大会となった。記念講演、基調講演ともに子どもたちの自己肯定感・自己有用感を高め、一人一人の育ちを支える指導について考えさせる内容であった。